

## 協会発足5年、青年部会有志が 業界の今後を問う



社団法人愛知県産業廃棄物協会が発足5年を経過しようとしています。発足10年目は西暦2000年代。まぎれもなく新時代が訪れようとしています。この節目を一つの目標に私たちは、産廃業界の現状と問題点、協会の在り方、今後の活動、将来展望をもう一度見つめ直し、新たなステップを踏むべきであると考え、特別企画座談会を開きました。

出席者に協会の、業界の、未来を担う青年部会有志を迎え多彩な角度から討論していただきました。

### 出席者

梅谷岳志／(有)花丘商事

永井 良一／永一産商(株)

栢下正司／(有)西尾浄化槽管理センター

永田 幹人／(有)武豊衛生社

加山 昌弘／加山興業(株)

新美 三良／(有)三洋サービス

鬼頭 明彦／(株)キトー

〈司会〉

所 仁司／広報編集委員会副委員長

(五十音順)

## 業界の方向性と協会の姿勢を 適正処理の立場から探る

—今回の座談会はタイトルの通り、協会発足5年を迎え、今後10年目に向けて協会がどうあるべきか、業界の方向などを討論していただくために企画されました。日本経済の産業の空洞化、処分場建設費の高騰などが静脈産業といわれる産廃業界の中で深刻化している大きな問題点です。また、いまの業界の流れからいくと、特に最終処分場の建設が資金的に非常に困難になりつつあります。一つの処分場に20~30億円かかるこの現状を見ると、ある意味で業界が淘汰されていく危惧があります。零細企業が多いこの業界の中で、今後、共業化していかざるを得ない状況になるのではないかという感じがします。これらについて皆さんがどのようなご意見を持っているかお聞かせいただきたいと思ひます。

新美 共業化という点では、青年部会の発足の契機が、何か一つ目標を持って一緒にやっいていこうという考えからスタートしていますから、あまり違和感がありません。業界自体これだけ収集運搬業者が多い中で、やはり目標となるものは中間処理施設や最終処分場の設置だと思ひます。この目標を実現するためには、資金的にも、環境的にも、ハードルを越えないことにはなかなか成しえないと思ひます。

鬼頭 最終処分場の場合、仮に複数の処理業者や排出企業が共同出資できれば、資金的には可能になるかもしれません。しかし、最終処分場ができたとして、埋立容量は決まっているわけで、どこがどれだけ搬入できるのか、負担金額に応じて搬入量が決められるのかという点がでてきますね。一言で共業化といってもなかなか簡単にはいかないかもしれませんね。

—私の経験からいうと、最終処分場は50万<sup>m</sup>以上の容量がないと採算が合いません。又、処理業者がつくるにしても担保能力の点で難しい点がある。そうなると第3セクター方式が浮上してきますが、私は協会がリーダーシップをとって、中間処理施設や最終処分場をつくっていくべきだと思います。支部ができたことですし、支部単位で処分場をつくる方向に行ってもいいでしょうね。大企業がこの業界に参入しつあるとの情報もあります。

永井 私は中間処理施設や最終処分場は、協同組合を設立し、地域別に区割りして拠点を設置する方式が良いと思ひます。収集運搬に関しては、その組合員が搬入する。これこそ廃棄物



永井 良一/永一産商(株)

処理業者、零細業者が生き残っていくスタイルではないでしょうか。もちろん、協会が音頭をとり実現するのがベストだと思ひます。

栢下 私の会社のある西三河地域には水利組合があり、こちらの指導をクリアした最終処分場をつくろうとすると生半かな費用では設置できません。その意味で、当地域では第3セクターを最終的な委託先にしていかざるを得ないような状況になっています。その中で私たち処理業者は、中間処理やリサイクルを中心に行っていくという考え方が私の持論です。

永井 私も第3セクター方式は賛成なんですけど、営利を目的としていない分どこかで私たちの仕事が途切れる可能性がある。この点が心配です。一番力を注ぐべきポイントは、やはり中間処理施設でしょうね。

新美 私は協会主導で、破碎、焼却、減容、溶融など中間処理技術をまとめた総合的な中間処理施設を設置できれば、これに勝るものはないと思ひます。

——最近、新聞を賑わせている積み替え保管施設の問題についてはどのような見解をお持ちですか。これは不法投棄の遠因にもなっているように思えます。この点にはいかがですか。

栢下 新聞紙上で報道されている積み替え保管施設の場合、施設そのものが、処理期限のない保管所になっているような気がします。処理費をダмпिंगして仕事を取るため、収集運搬してきても物が動かさなく



栢下正司 / (有)西尾浄化槽管理センター

る。中間処理施設に対する保管許可はけっこう厳しいですが、収集運搬における保管施設はいかがなものかと。

——私は非常に単純に考えるのですが、原因は二つあると思います。一つは排出事業者が物を販売する時点で、それが廃棄物になった時の処理費が価格に入っていないような気がします。だから無理が生じる。処理費がこれこれ原価の中に入っていますという表示が全くないわけです。二つ目は処分場の絶対量の不足。この二点ですね。

栢下 ISO14000シリーズの中に環境監査が入ってきますので、これが導入されていくと処理費も若干、原価に入れていただけるのではないのでしょうか。

——また、ごく一部の悪徳業者が起こす事件をマスコミが大きく報道するという点も懸念されることの一つです。1%の悪徳業者のために99%の真面目な業者が迷惑を被る。このような事態をどうしたら改善できると思いますか。

栢下 無許可業者や協会に所属していない業者などが不祥事を起こした場合は、行政や司法の判断に任せるしかないと思います。協会の会員が不祥事を起こした場合は、協会メンバーの名前まで汚したことになりますから。協会内部

で自浄作用が行えるような体制をつくるべきではないかと思います。

鬼頭 そういう場合、協会からの除名処分や永久追放ということも考えられますね。もちろん、ケースによりますが。しかし、協会に入っているだけで優良業者であり、適正処理をしていることが前提条件だと思います。来る者は拒まずで、入会してから何をやっても許されるというのは納得がいきません。



鬼頭 明彦 / (株)キトー

加山 とにかく、これくらい行政の対応が厳しくない業界もないのではないのでしょうか。やはり、悪徳業者にはもっと厳しくしていただいで、業界の浄化、優良業者の育成を推進していただきたいと思います。例えば、サッカーの場合、反則をして審判がイエローカードを2回出したら後は退場となるレッドカードしかないわけです。私たちの業界にもこれくらいの厳しさがあってもいいはずですが。これだけリサイクルが関心を持たれている時代ですから、甘い対応のままでは今後は済まされないと 생각합니다。

私の持論ですが、廃棄物は仕事を請け負ったとしても、あくまで自分たちのものではないということを忘れないことが不祥事を起こさないこと条件です。排出事業者から預かったものであるという認識。これが大切だと思います。

——目立つ悪徳業者は放置せず、どんどん検挙していただくという方向にこれから行くと思います。協会もそれに積極的に協力していくべきでしょうね。

永井 支部単位で不適正処理パトロールを行うことも方法の一つですね。もしくは協会三役と支部がいっしょになって行ってもいいかもしれません。

栢下 各支部が相互にパトロールし合ってもいいのではないのでしょうか。

鬼頭 適正処理委員会で行っていただいてもいいと思います。

加山 支部単位でのパトロールに警察も参加していただいた形で不適正処理を正していくのが良いと思います。私たちの意見を、行政だけでなく、司法にも言えるシステムをつくり、問題を一つ一つ解決していくべきではないでしょうか。例えば、協会の中に苦情対策を計るセクションをつくるとか、地域別に警察の担当者の方を交えた会合をつくる。組織替えを一生懸命やっていけばいいと思いますね。

— そういうアイデアを持つ若い諸君が、もっと協会中枢に入って、協会を活性化していただきたいですね。例えば、中間処理施設や処分場に対する制約を、もっと実情に即したものにするために協会から要望を出すなど、どんどん活躍してほしいと思います。そういう努力を協会はもちろん、全産連からもしていくべきでしょうね。



所 仁司/司会  
広報編集委員会副委員長

若い人達が新しい知恵で、協会を盛り立てていただきたい。ぜひ、いっしょに改革を行いましょうと声高く宣言してください。

永井 改革という意味では、適正な処理費をいただけるようにしていくことも一つですね。例えば、施設にこれだけ投資した場合、これだけ減価償却をしますといった例示を出し、これだけの量を受け入れると処理費はこうなるという試算を出すことも大切だと思います。

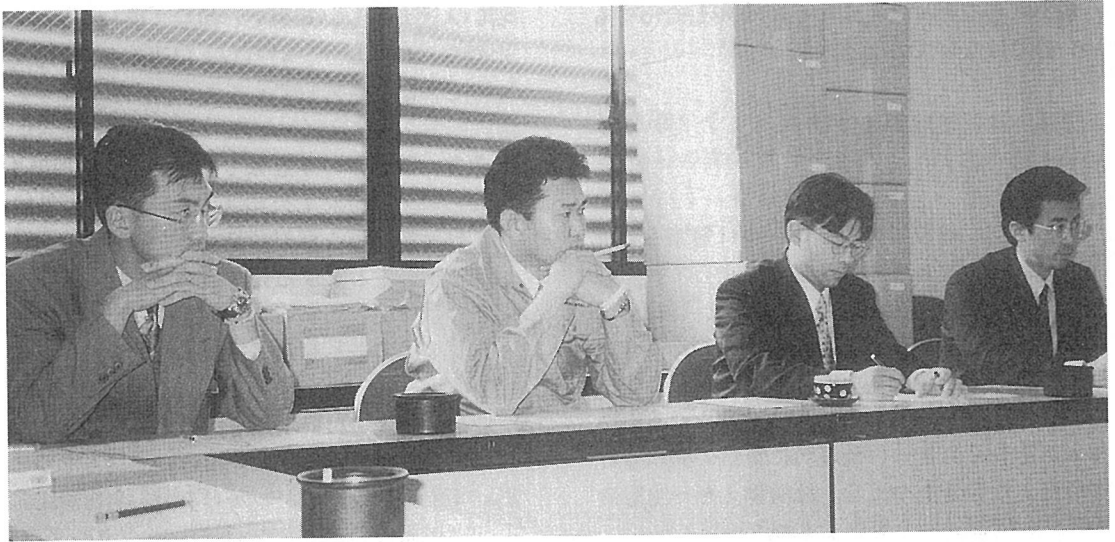
新美 いま出た料金についてですが、まだまだ情報交換ができていないための混乱もあると思います。料金体系がわからない。名古屋ではこう、尾張では、三河では、という情報交換。いわゆる横のつながり、ネットワークづくり。青年部会だけでも横のつながりを強化し、どんどん情報交換していきたいですね。もちろん、これは支部活動でも可能だと思います。

— 協会の今後の在り方がいろいろ出てきたように思います。その他、なにかありませんか。

加山 協会がイニシアチブを取りながら、行政や司法といっしょに適正な事例をつくっていくことでしょうか。会員620名を越える団体にまで成長した協会の内部をみんなといっしょに







なって改善していく。そこに関わることが、次代を担う青年部会の在り方であると思います。青年部会は率先して汗をかかないと。日頃から協会と、会員と、接点を見つけながら取り組んでいかないと業界自体良くなっていかないと。自分のことは棚上げして、他人のことだけ文句を言うようではいけない。排出事業者はそのあたりのことはあまりご存知ないのでなおさらです。



加山 昌弘/加山興業(株)

— みんな協会に期待しているわけですから、協会自体が健全であることが大切ですね。今日ここにいらっしゃる方たちは、これからの人たちです。少なくとも5年先、10年先を読んでいただいて、どんどん協会を活用し、法律を改正していけるような力を持ってほしいと思います。いまのように、法令は同じでも、各県によって条例が異なるということは本来ありえないはず。足りない処分場をなんとかしようとするから、みんなが無理をする。私は、いずれこの県で処理しようとも全く自由な時代が来ると。また、来るように私たちが努力していけば、不適正処理という問題は自ずと解決すると思います。

では、最後に一言ずつ将来の夢を聞かせていただけませんか。

鬼頭 協会については、もっと一般市民に受け入れられるような組織になってほしいと思います。自分の将来としては、ビジネスである以上、業界に携わりつつ会社が長く存続していきたいということです。

梅谷 当社は有機汚泥をメインに取り扱っており、それをリサイクルして、堆肥化している関係上、この事業をうまく伸ばしていければと思います。ただし、堆肥をつくるだけでは何ともならないので、私は生産者であり、メーカーになっていきたいと考えています。



梅谷 岳志/(有)花丘商事

栢下 私はこの仕事が、正直者は損をするのではなく、正直者がやはり報われるものにしていきたい。もちろん、今後もそのような仕事をしていきたいと考えています。

永田 私は業界が料金を下げあうのではなく、上げあう業界にしていきたいと思っています。

そして、適正処理に関わる費用をいただける業界にすることができれば、この業界の未来は明るいと思います。自分の思う道を信じて、全力で適正料金、適正処理の実現を推進していきたいと思っています。



永田 幹人/(有)武豊衛生社

新美 私たちの子供、孫たちが、この業界の仕事素晴らしいものと認め、この業界への就職を目指していただける未来をつくり上げることです。アメリカでは、子供たちの就職したい職業として一番に上げられるそうです。そういう未来に、私たちの後を継いでくれる人たちに対して夢を与えられたらいいですね。

永井 私はいま、廃棄物の中間処理を行っていますが、常に優れた中間処理技術を取り入れながら、積極的にリサイクルが行える施設をつくっていききたいと思います。いずれは廃棄物が限りなくゼロにできるような施設にしていきたいですね。また、これとは別に新卒者に喜んで入社していただける企業No.1になれるよう日夜努力し、いつかはそれを実現できればと考えています。

加山 私は、廃棄物は限りない資源であると考え、サーマルリサイクルに取り組んでいきたいと考えています。蒸気や湯を使って、少しでも社会に還元できるような生産性の上がる業務を行いたいですね。サーマルリサイクルを通して、静脈産業から動脈産業に移行していけたらと思います。この流れが一つのハブとなり、皆さんに利用していただけるような形をつくり、みんなで集まるといろいろなことができるということをどんどんアピールできればいいですね。

